



教育計画とその実践

大阪市立常盤幼稚園

広岡キミエ

私たちのカリキュラム作成の動機は、基準的なカリキュラムへの疑問から出発したものでした。かつて私たちは他の人の作ったカリキュラムの主題にしたがって保育していたときがありました。当時（七、八年も前の）これらの基準的なカリキュラムというものは、教育的なねらいが確かで、妥当性があり、だれでもが安心して用いられる外形を備えていますのに、その実、用いてみると何かピタッとこない、子どもを力いっぱいに動かしきれないという不満を感じるのでした。ことにひっつかかって、これは何だろう？ なぜこれをしなければならぬのだろう？ というようにばかり考えさせられてしまうのです。たとえば、こんなことです。

五月の単元に「私たちのからだ」というのがありました。そこで、自分の身長や体重や四肢のことに関心をもつように遊びを導

き、健康的な習慣や心くばりまでができるようにと高い目標が打ち出されてあるのですが、この頃の子どもは庭の隅でぢむしを掘ったり、毛虫を集めたりするのが一等好きで、なかなか私たちの願ひとするからだのことはいるチャンスがありません。身体検査をした日は、からだについて話しあうことができませんが、そんなことは、三日も四日も続くものではありません。そこで毛虫のことから人間の手足を移したりしてみますが、その露骨なこじつけには、われながらわびしくなって、なぜこんなにまでしてこのテーマにはいられなければならないのか、と考えさせられます。いったい、健全な子どもが自分の手足をマジマジとみて、その存在を問題にするというようなことがあり得るでしょうか。胃や腸の存在を自覚しない人が最も胃腸の丈夫な人であるはずですが、それよりも子どもは、もつと手足を力いっぱい動かすことに忙がしくなくてはならないのです。自分の健康管理ができるのはおとなのことで、子どもはそばから管理してやらなければならないものではないでしょうか。もちろん、健康を保てるような良い習慣はおとなの工夫で子どもに身につけてやらなければなりません。けれども余りそのねらいが強力に、なまで打ち

出されていると、子どもの自然な姿が押しつぶされてしまうので
す。余り末端まで細かくとりあげられていると、つい保育者が思い
ちがえて末梢的なことに拘ってしまふのです。しかしこうした
教育的ねらいの強方さだけではなく、子どもの興味から出発したの
に何となくすれちがってしまふ場合も少なくはありません。たとえ
ば、垣根いっぱい美しくクライミング・ローズが咲きました。アツ
と目をみはるばかりの美しさです。そこまでは先生も子どもも同じ
です。しかしそこから観察だ、お話だ、歌だと押しつけていき、最
後はりっぱな製作に残さなくてはおさまらないというようなことにな
るともういけません。お花などという静的なものに、子どもはそ
れほど興味をもってはいません。むしろこの美しさが、子どもの心
の奥深くにやきつけられるのは、最初の一瞬あつ！きれいと思っ
たときなので、あとへいろいろと因縁をつけてひっぱると、逆効果
になるような気がします。こうしたズレは何でしょう！教育目標
というものに余りかたくとらわれたり、先生的入念さが、あれもこ
れもと細かい注文や注意をつけ過ぎることによって、ついに子ども
の興味から逸脱するということなのでしょう。それはまるでご主人
さまをぬきにして料理自体を大こりにこっている料理人みたいな気
がします。芸熱心と善意から出たことにはちがいないのですけれ
ど、当のご主人さまのためには、少しもなっていないということな
のです。片っぱしからこういつつまずきを覚え出して、一年間を辛
うじて過ごした私たちは、とうとう思いきってこうしたテキストを
捨てました。

子どもの興味を先頭に立ててあとからついていくことにしたので
す。しかしよりどころとなる一貫した筋をあらかじめ持たないと

うことは冒険でした。でも私たちは恐れながらもただ今日にすべて
を賭けました。今日のいのちをあらん限り燃焼させつくすのだ、そ
の推積が良き明日なのだ信じました。本気でした。一日もおろそ
かにはできない思いでした。子どもも先生も精いっぱいであつたか
ということだけを反省して、一日済むごとに、その日の記録をつけ
ていきました。こうした生活の内には、不安と混乱がいつもありま
した。しかしまた、子どもの本気さ、つまり一個の人格として対等
に向かいあえるような子どもに出会う喜びをも、たびたび体験
しましたので、私たちは忍耐することができました。幸い保育者た
ちはみなベテランで、保育を後生大事にする人たちでした。第二
年も同じで去年の記録をさえ見ないで、ただ子どもをだけみて歩
きました。何か去年の記録が参考にならないような気がしたのかも知
れませんが、それでも一日一日の記録だけは怠らずとっていました。

こんな保育は、一見気まぐれのように見えたり、行きつ戻りつしま
すので、なかなか一貫した筋には通りにくいので、まとめあげるこ
とができずにいました。だけど、ときどきわれながら筋道が判らな
くなつて、始めから考えなおさなくてはならなかったり、他から計
画性がないようだと詰めよられると、その説明がなかなか困難
でじれてしまつたり、当惑したりもするのです。私たちは、子ども
の遊びの効果を現在子どもが新鮮でいきいきしているかということ
と、この遊びが生涯の何に連らなるのかと考えることで決めてきて
いました。たとえば、絵をちよつとも描かない子があつても、私た
ちは、そう性急に描かせようとはあせりません。砂場や積木で、ド
ンドンものを創ることのできる子なのです。あるいは、リズム表現
でドンドン自分を出していくことのできる子なのです。絵を描かな

い理由はきわめてつきとめておきたいことではありません。(案外つまらないことがひっかかっているのかも知れませんが、思いもかけない大問題を掘りあてることが出来るかも知れません) けれど、今絵を描かないから不具だとか、生涯の生活がアンバランスになって不幸だとかいうことではないでしょう。もともと、自然な子どもの願いとこのものは、いつもしめくりなく流れていることを好むものではないです。思いきってまとめよう。そしてわれひとともに、しっかりした筋道を確認しようと思ひつたのが五年目でした。毎年とめどなく変っていたようでしたけれど、四年分の記録を集めてみると、一応まとめることができました。それだけに、何だ、こんなものかと、その平凡なことにもちよつとがっかりしました。そうです。カリキュラムの動いてはならない部分と、動いて動いて絶えず新しく変らなければならない部分のあるを知ったわけです。

自分で立つ。
自分でものを創る、考える。
ともだちと仲良く遊ぶ。

ということを私たちの保育のスローガンとしているのですけれど、この目的が不動である限り、そして、この年齢の子どもの共通性に足場をすえている限り、単元目標というものは動かぬものがかめるわけです。それで、単元をできるだけ中広く大きくとり、その中に多くの主題がとりこめるようにしました。単元の目標からそ

れない限り、各組は、保育者の個性とその場の子どもとの生きた結びつきから常に新しい主題がとりあげられるはずで、その主題のもとにいろいろの資料が拾われていくわけです。この資料は常に新しく動いて流れていきますから、掲げても意味のないもので、掲げきれないほど複雑なのですが念のため、資料例として集めてみました。試みに年間の単元表を掲げてみましょう。

III	II	I	単元		月	週	主題
			単元	目的			
夏が来た	元気に大きくなる	楽しい幼稚園	(1) 幼稚園生活になれさせる。 (2) 同年齢の仲間生活に気づかせる。 (3) 幼稚園生活に楽しみを覚え進んで登園するようにさせる。	四月	第二 ~ 第四	幼稚園 お友だち と遊ぶ	
	(1) 遊びが少しずつまとまり表現活動が活発になるようにしたい。 (2) 季節の小動物と親しみ季節感を味わわせる。 (3) 梅雨期も楽しく無事に遊ばせたい。 (4) 健康生活の良習慣を得させる			五月 ~ 六月	第一 ~ 第三	初夏の小動物 身体検査 つばめ 梅雨など	
				六月 ~ 七月	第四 ~ 第三	海 七夕さま 水遊び等	

VIII	VII	VI	V	IV
劇遊びをしよう	冬の遊び	製作する	戸外で運動する	第二学期が始まる
(3) 小学校へ上る希望と自信をもたせる。 (2) 多くの友だちと協同して大きい仕事をまとめる。 (1) 持っている表現能力の全部をあげて総合的な一つの仕事をまとめる。	(1) お正月の余韻を楽しむ。 (2) 進学をめあての第三学期の良スタートとする。	(1) 自分で工夫しながら力いっぱい製作する。 (2) 協力してものをつくる。 (3) 忍耐して完成する。 (4) 秋から冬への自然観察。	(1) 戸外遊び、リズム遊びを中心にして身体の充実をはかる。 (2) 秋の自然にふれさせる。	夏休み中の心身のゆるみから脱して規律ある集団生活を早く回復させる。
三月 第一 卒業	二月 第一 お芝居ごっこ	一月 第二 冬の遊び	九月 第三 虫捕り 十月 第一 競技 第三 運動会	九月 第一 夏休みの報告 第二 トンボと り(蟬)

組 C	組 B	組 A	組
お正月の遊び 本読み (プレイマンの音楽隊) (インフ物語) お正月、風あげ 十日戎 お話し合い 和尚さんとお餅 三匹の子豚	お正月の遊び お話し合い 凍る爺さん 霜坊主 三匹の子豚	お正月の遊び お話し合い ラ姫 かるたとり 三匹の子豚	主題 言語 現 生活 動作 自然 健康 社会
唱歌 「たき火」 「風の子」 リズム 表物 こままわし 羽根 動き スキップ	唱歌 「子どもは風の子」 「うなるようなうなる」 表現 お正月の遊び こま、風、羽根 レコード 三匹の子豚 トイ・シンフォニー	音楽リズム表現 まりになる 風、羽根	音楽リズム
画 お正月の遊び 落書場	なし	すみ絵 霜 お正月風 朝霧 はしかの 水たまり りのお水 外遊び奨励	絵画製作
うがい 鼻かみ	霜(平手洗い後均台よく拭う) 上)こと 水道のしもやけ 氷の語 風(風外遊びあげ)	うがい 洗面 の励行 たか 寒さに負けずに登園する	自然
お正月の遊びを友だちとする 手袋、オーバーのしまつ 室内遊びを静かに	早寝、早起 同右	冬休みのお約束は守れたか 寒さに負けずに登園する	健康

こんな単元表のもとに各保育者が自由に繰りひろげている保育の実際を記してみました。
一年保育の四組について書きましよう。
単元七 冬の遊び (一月第二週記録)

組 D	
お正月の遊び	話し合い お正月に遊んだ「たき火」 「バラバラ落ちる」お正月のこと 十日戎 幻燈 三匹の子豚 紙芝居をする 三匹の子豚 三匹の子豚
	唱歌 「風の子」 「たき火」 「お月さま」 リズム 表現 リンゴになる
	クレパス 画 お正月の「あけ」 こと 霜 外遊びをする 元気にする
	厚着をし お正月の生活の不規則さからぬける 早寝、早起 できるだけの友だちと遊ぶ

第三学期の出発はこのように大体同じです。単元の変った第四週を掲げてみましょう。

単元八 劇遊びをしよう(一月第四週)

組 A		組 B	
劇遊び	話し合い 霜のこと 人形芝居のこと お話 霜の兵隊 りんご十個 おばあさんと豚 劇遊び 「りんご十個」 「おばあさんと豚」 ベープサード	お正月の遊び	話し合い お正月に遊んだ「たき火」 「バラバラ落ちる」お正月のこと 十日戎 幻燈 三匹の子豚 紙芝居をする 三匹の子豚
	唱歌 「風の子」 「たき火」 「お月さま」 リズム 表現 リンゴになる	唱歌 「寒い時」 「氷火事」 リズム 動き 氷すべり	唱歌 「風の子」 「たき火」 「お月さま」 リズム 表現 リンゴになる
	クレパス 画 お正月の「あけ」 こと 霜 外遊びをする 元気にする	クレパス 画 お正月の「あけ」 こと 霜 外遊びをする 元気にする	クレパス 画 お正月の「あけ」 こと 霜 外遊びをする 元気にする
	隣の組と合併で遊ぶ 他の組のベープサードをみる	隣の組と合併で遊ぶ 他の組のベープサードをみる	隣の組と合併で遊ぶ 他の組のベープサードをみる

組 D		組 C		組	
お芝居 ごっこ	本読み 親指姫 ベープサードを演ずる 「三匹の子豚」 「七匹の小山羊」 「レコードに合わせた人形を動かしてセリフをハッキリ言う」	劇遊びをしよう 紙芝居 ベープサード等々を演ずる	本読み 「ペンセルとグレートル」 「豚のお話」 「とびはねろ」 お友だちのお話を聞く ベープサードを見聞 リズム 三拍子で動く 角力	対話していく 「トイ・シンフ」による表現 リズムバンド トイ・シンフォ 自由打ち 太鼓を使う	「ペンセルとグレートル」を壁面で見せる 「豚のお話」を壁面で見せる 「とびはねろ」を壁面で見せる 「お友だちのお話を聞く」を壁面で見せる 「ベープサードを見聞」を壁面で見せる 「リズム」を壁面で見せる 「三拍子で動く」を壁面で見せる 「角力」を壁面で見せる
	唱歌 「小雪に小枝」 「たき火」 表現 リズム		唱歌 「風の子」 「とびはねろ」 お友だちのお話を聞く ベープサードを見聞 リズム 三拍子で動く 角力		
	クレパス 画 お正月の「あけ」 こと 霜 外遊びをする 元気にする		クレパス 画 お正月の「あけ」 こと 霜 外遊びをする 元気にする		
	隣の組と合併で遊ぶ 他の組のベープサードをみる		隣の組と合併で遊ぶ 他の組のベープサードをみる		

D組は当園唯一の二年保育年長組で、この組に一月第三週目にした頭したベープサートが次第にひろがって、他の組に影響を与えています。それはある日、他の組を招待してみせたことからです。(ここにあげていない他の二組も影響をうけています)ただ一組(キノオ)をしている組だけは影響を受けていないのもハッキリしています。とにかく、どの組も劇遊びの方向にむかっています。もう特定の題材をつかんで進んでいるものもありますし、まだハッキリした題材に取りついでいないところもあるようですが、第八單元の目的にそうように押し進めて行く意図がよく見えます。第三学期は、大きな題材にいでんで一つのものを長く深く突込んでいくのが特長です。少しとんで二月第三週の例をあげてみましょう。

單元八 劇遊びをしよう(二月第三週)

B	組		A	組		
	劇遊び	鬼			主 題	
本読み (キノオ) 続き最後まで 瓜子姫と天邪劇笛ふきの滝はか舞台装置	唱歌 『森の子ども』 『雨、雪、星』 くる	唱歌 『節分のうた』 『たき火』 『風の子』 リズム	本読み 『金の木、銀の木』 『ジャックと豆の木』 (りんご) お芝居ごっこ (小グループに分けてみせあう) りんご十個 (年少児) ゲーム お山の鬼ごっこ (年長児)	現 活 音楽リズム 絵画製作		
				劇遊びの 道具をつつ 雪亮	自然 ひるねを 静かに	社会 ひるねの用 意と後片づ
協力して 完成する	劇遊びの 道具をつつ 雪亮	鬼を描く 暖かい 静かに	鬼の城門 みぞれ 朝の顔洗	鬼の面作 雪 薄着を励	健康 ひるねを 静かに	社会 ひるねの用 意と後片づ

D	組	C	組
お芝居 対話 (クリム童話集) ごっこ 暗誦 メリーさんの羊 お芝居 『松の木の願い』 小枝	本読み 『小雪と小枝』 リズム レコードに合わせ動く (小人の出)	本読み 『アルプスの山の少女』 劇遊び (三匹の子豚) 話し合い 三つの家について お話リレー 三匹の子豚を八人 声だけの芝居 テープレコーダを使用	鬼 放送ごっこ 山猫と一郎の対話の場 (テープレコーダを使う) りと山 猫
リズムバンド カッコウ・ワルツ (ハンドカス ターで)	唱歌 『小枝と小枝』 リズム レコードに合わせ動く (小人の出)	唱歌 『橋の上』 『山の音楽家』 (輪唱) (指揮で歌う) 小太鼓を入れる リン 三匹の子豚 (野原へリンゴをとりに行くところ)	動き 三拍子で かける ころがる シャガんで歩く ゲーム 栗の木の下で リズムバンド ジングルベル 風の子 茸の楽隊をする (指揮の工夫)
いろいろ (金、銀、カラス)の工夫	為の製作 厚紙と木 工 松、杉、雪 架つぱの	木工 煉瓦の家 雨降り ワァイオ リン 他の楽器 暗い空をつくる	いろいろ 小道具の いろいろ 雪がふる 標識 葺の笠 壁面 山猫 一郎 栗など
協力の楽しさを感じさせる	一つのお芝居を始から終りまで自分たちの手でつくりあげる	代りあってお芝居ごっこを楽しむ	後かたづけをよくする

